

令和6年度(2024年度)年間授業計画表									
学年	2	コース	総合進学	選択形態	必須	科目	生物基礎	単位	2
学習目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。								
使用教科書	生物基礎(数研出版)	副教材	新課程版ネオパルノート生物基礎(第一学習社)				予定時間数	70	
単元と内容									
1学期	序章	生物基礎で学習する内容の概要を把握する。顕微鏡の使い方、計算を習得する。							
	第1章 生物の特徴 1.生物の多様性と共通性 2.エネルギーと代謝 3.呼吸と光合成	生物は多様でありながら、共通性をもっていることを理解する。生物の共通性と多様性は、生物の進化の結果であることを理解する。生命活動にはエネルギーが必要であることを理解する。細胞の生命活動のエネルギーはATPの形で供給されることを理解する。呼吸や光合成の過程でATPが合成されることを理解する。酵素の特徴を理解するとともに、酵素によって生体内に必要な化学反応が進行することを理解する。							
	第2章 遺伝子とそのはたらき 1.遺伝情報とDNA	DNAは2本のヌクレオチド鎖からなる二重らせん構造をしていることを理解する。遺伝情報はDNAの塩基配列にあることを理解する。							
2学期	第2章 遺伝子とそのはたらき 2.遺伝情報の複製と分配 3.遺伝情報の発現	DNAが、半保存的に複製されることを理解する。細胞周期の進行に伴って、DNAが正確に複製され、2つの細胞に分配されることを理解する。タンパク質のアミノ酸配列は、DNAの塩基配列によって決まることを理解する。個体を構成する細胞は遺伝的に同一であるが、細胞の機能に応じて発現している遺伝子が異なることを理解する。							
	第3章 ヒトの体内環境の維持 1.体内での情報伝達と調節 2.体内環境の維持のしくみ 3.免疫のはたらき	体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。自律神経系と内分泌系による情報伝達によって、からだの状態の調節が行われることを理解する。ホルモンと自律神経のはたらきによって、体内環境が維持されていることを理解する。からだに、異物を排除する防御機構が備わっていることを理解する。免疫と病気の関係や、免疫が医療に应用されていることについて理解する。							
3学期	第4章 生物の多様性と生態系 1.植生と遷移 2.植生の分布とバイオーム 3.生態系と生物の多様性 4.生態系のバランスと保全	植生の成りたちや相観について理解する。植生が時間の経過とともに移り変わっていくことを理解する。世界各地には、多様なバイオームが成立していることを理解する。気候条件によっては、遷移の結果として森林のほかに草原や荒原にもなることを理解する。生態系の成りたちを理解する。生物どうしの関係が種多様性の維持にかかわっていることを理解する。生態系がもつ復元力について理解する。人間活動が生態系に及ぼす影響について理解する。生態系の保全の重要性について理解する。							
評価									
評価の観点		評価の趣旨				評価対象			
						1学期末	2学期末	学年末	
①	知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。				○	○	○	
②	思考力・判断力・表現力	生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。				○	○	○	
③	主体的に学びに向かう態度	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。				○	○	○	
評価方法	①		②		③				
	定期考査 80 % 小テスト 20 %	定期考査 80 % 各種発表 20 %	各種提出物 80 % 各種発表・ノートまとめ 20 %						